

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいを大切にしながらの理念を基に地域と交流できる場面に参加、協力しています		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、ホール、事務室に掲示しています。朝の申し送り時には、毎日唱和しています。気付いた点は職員同士注意しあっています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は玄関、ホールに掲げ、面会者誰にでも見ていただけるように掲示しています。家族来客者は目にされています。広報誌青葉だよりに毎回記載し、家族には配布、地域住民には回覧板にて、理解してもらえるよう取り組んでいます		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行きかう人には笑顔で挨拶をし、声かけをしています。玄関先の鉢花をみて「きれいに咲いてますね」と声をかけてもらえうよになりました。行事にはプリントを地域の掲示板に掲示しています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し月1回の班長会議に参加しています。月1回の公園清掃、夏祭りには職員が役員として協力、利用者は祭りに参加しています。隣にある高齢者マンション住人とは、事業所主催の夏祭り、敬老会、クリスマス会に参加され交流を図っています		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	公民館長、民生委員に介護や認知症でわからないことは、気軽に相談していただけるように声かけしています。入り口には大きな看板を掲げ、訪問・相談しやすいようにしています。開設法人病院の地域連携委員の職員と一緒に地域の高齢者に健康、体力測定チェックをおこないました		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員で実施する意義を理解し自己評価にとりくみました。、評価結果も報告し改善できることから取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価の結果を報告し、メンバーからの意見、要望を頂き、サービス向上に活かしています。経過も報告しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での担当者との相談はしていませんが、市が実施しているあんしん介護相談員を受け入れ相談員にはアドバイスを受けています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は外部の研修に参加し、職員へ伝達講習を行っています。家族には家族会議を通して説明しています。必要と思われる利用者がいられた場合は関係機関に橋渡しをしていきます。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部の研修に参加し、職員には伝達講習をおこなっています。日常生活の中に虐待になり得る言動はないか注意を払い、入浴時など不自然な痣がないかなど注意して観察し、予防、早期発見できるようにしています。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、利用者契約書、重要事項説明書を用い、納得されるまで説明し、同意を得て契約しています。解約にも十分に説明し、話し合い、同意を得ています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員と利用者の信頼関係ができており、話しやすい環境を作っています。あんしん介護相談員を受け入れて、馴染みの関係ができており相談できる機会もあります。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりは口頭、青葉だよりに行事写真など記載し、健康状態は面会時、体調変化時に電話で伝え、金銭管理は出納簿を基に家族に確認。職員異動は面会時口頭、家族会議の時文書で報告しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会議の時、意見や不満、苦情を聞いています。意見箱の設置、無記名による家族のアンケート実施、意見をもとに運営に反映している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的にスタッフ会議を行い、職員の意見を聞いています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	定期的なイベント時には、増員や他ユニットから応援も含め対応しています。利用者の状況の変化時は必要な時間帯に職員を確保できるように、全職員で話し合い、勤務の調整に努めています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職があり定着していない、職員同士働き易い人間関係ができるように努めています。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては年齢、性別による制限はもうけていません。職員の特技を、行事、レクリエーションに発揮してもらっています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理規定があり、年1回の倫理教育を開設者法人でおこなっています。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修計画、記録表は作成しています。開設法人内の研修に参加している。また職場でその場面場面で助言、指導しています。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あんしん介護相談員意見交換会、認知症ケア研究会に参加し意見の交換の場としています。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	開設者法人での旅行、慰労会、忘年会などがあり、職員との交流を図っています。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、職員に自己の目標や勤務状況など自己分析自己評価表を提出してもらい管理者、運営者よりアドバイスをうけ、向上心がもてるようにしています。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人に会い会話の中や行動から心身の状況、生活状況の把握につとめ、必要に応じて数回通所して受け止める努力をしています。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や入所予約時より、困っている事、不安な事、求めている事、家族状況などじっくり話を聞き受け止める努力をしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からよく話を聞き必要に応じた支援を見極め、本人、家族に必要と思われる他のサービス利用も説明しています。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人、家族に見学してもらい、職員が訪問、体験通所も家族、介護サービス担当者と同席して数回来ていただき場の雰囲気に馴染めるようにしています。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で長年培った知識や知恵を教わりながら、利用者の苦しみや、不安、喜びなど共に分かち合い、お互い必要な関係になるよう努力しています。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族の参加をお願いし、ともに楽しみ、喜ぶ時間を作り問題があれば家族に相談また家族より相談を受けながら支えている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の思い、家族の思いを考慮し時には両者間の懸け橋になりながら関係が良い方向に向かうように支援しています。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の中には馴染みの人が立ち寄られています、馴染みの場所にも初詣や祭りには出かけています。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話や行動、態度をよく観察し、揉め事や孤立しないように職員が間に入り関係をよくしています。また利用者同士で助け合い支えあう場面があります。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院となり、契約解除された方には面会に行ったり、家族にも連絡をとっています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの意向表明していただけない利用者が多くその人の言動、行動、表情から思いを組みとり、生活歴、趣味など家族より把握し職員同士情報を共有し本人本位に成り得るように検討しています。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ利用者の把握に努めています。前回のサービス利用の経過も関係者より情報が提供され把握できています。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一人ひとりの生活リズム把握し、日々その時々に変化する心身状態に対応できるように努めています。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新しく入居された本人家族からは意見が多いが他は希望が少なく意見やアイデアが反映している介護計画ではない。理学療法士に相談し、助言はしてもらっています。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ見直しています。変化時は新たな計画を立て家族に報告し意見を聞いています。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルがあり、変化のある利用者の記録は情報を共有できているが、すべての利用者の情報を共有でき、見直しに活かしているとは言えません。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの隣が同一法人の病院という特性を生かし医療連携体制を図りそれぞれに必要な医療が受けられるように支援しています。他の医療機関受診も必要に応じて通院介助をしています		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中学生の福祉体験を受け入れています。夏祭り、敬老会、クリスマス会ではボランティアによる演奏、踊りなどもしていただいています。民生委員の協力で大蛇山がグループホームにきていただきました。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	同一法人の事業者ケアマネジャーとの情報交換連携は図っているが、他のサービスを利用したい意向の方は今のところいない		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センター職員も運営推進会議に参加してもらっています。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関に診察できるようにしています。他病院にかかられていた利用者は家族が利用開始とともに隣接した開設者法人病院へと希望されています。往診に来ていただき 検査など必要時は病院へ行っています		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病院の主治医に相談し指示を仰いだり 協力病院の専門医に相談 必要に応じて受診しています。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員2名を配置しており、利用者の健康管理、状態変化に応じて支援しています。夜間でも連絡 対応できる体制にしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人に関する情報を提供しています。面会時や電話連絡で家族 病院関係者と情報交換、相談を行い速やかな退院支援をしています。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについての意思を本人や家族に確認を行っています。重度化やターミナル期について実際の時期に再度確認するようにしていますが、重度化の時は家族が病院を希望され入院となり終末期までの利用がありません。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化の時 医療が常時必要時は家族 医師と相談し、事業所で対応できる場合は開設法人の病院と連携をとりながら支援していきます。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから別の居所への移り住むケースはなかったが、あった場合は利用者の状況を詳しく情報提供していきます		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誘導の声掛けが大きくなったり介助に配慮が不十分な面がある。個人情報の取り扱いも全職員が理解できているとは言えない	○	プライバシーの確保、個人情報の取り扱いを全職員が周知できるようにしていきたい
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との生活の中で馴染みの関係となり、話しやすい環境を作っており、利用者に合わせて言葉を用い、時間をかけて説明、納得、決定できる場面を作っています。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決めています利用者の体調や希望に沿って個々のペースで生活できるように支援しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事や外出時 よそいきの服に着替え化粧も勧めています。季節違いの服を着てある時は声掛けし一緒に服を選んでいきます。かかりつけの訪問美容 理容を利用しています。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と畑で収穫した作物を使って一品作ったり、昼食は利用者の希望をメニューの取り入れています。能力に応じて下ごしらえや味見をもらい、殆どの職員が利用者と同じ食事を同じテーブルを囲んで食事をし必要な介助を行いながら和やかな家庭雰囲気作りに努めています。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物 菓子 漬物等、家族が持って来られたり、利用者の要望に添って買い物にも行ったりしています。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を作成し排泄パターンを把握。日中はトイレでの排泄を促し、排泄サインの把握、排泄パターンに合わせて誘導、後始末が上手にできない利用者には介助し清潔保持に努めています		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、日勤帯で支援しています。入浴を拒む利用者に対し職員による言葉かけの対応を工夫し、他の利用者の声掛けの協力も得ています。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、生活習慣に考慮し、ゆつくり休息はとれるようにしています。夜眠れない利用者に対してはお茶、お菓子を勧めたり話しながら付き添っています。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中での台拭き 洗濯物たたみ 調理の下ごしらえをもらい 絵の得意な利用者には季節の風物詩の絵を描いてもらい掲示 歌が得意な利用者は歌で賑やかな雰囲気になっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人で管理できる方は少額のお金を持っていただいている。買い物のお金を所持していない利用者には事前にお金を渡し自分で払ってもらうように支援しています。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて敷地内の畑 花壇 周辺の散歩に出かけています		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣 神社の祭りなど希望した利用者数人と外出 花見は家族を含めた団体で出かけています。また、家族にも家族同士での外出の協力をお願いします。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時にはダイヤルを回し本人に代わって話してもらっているが、難聴で聞き取れないところは職員が変わって代弁している。年賀状を書いて出されています。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶し迎えることを心がけ、お茶を出したり、食事を一緒に楽しんでもらったり、気兼ねなくゆっくり過ごしていただけるようにしています。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の勉強会を行い、職員の意識の向上を図っています。目に見える拘束は行ってないが、何気ない行動や言動による精神的な身体拘束についても話し合っています。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中 玄関は施錠せず 出入り口にはセンサーをつけ出入りを音で知るようにしています		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	同じ空間で仕事をするように心がけて状況を把握しています。居室で過ごされる利用者には、訪室しさりげなく様子を把握。夜間はわずかなもの音でも聞こえ利用者の様子を察知できる位置に待機し監視しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤 刃物など注意が必要なものは利用者の目の届かないところに収納し、利用者の状況変化に応じて注意の必要な物品の保管管理をしています。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	開設者法人で安全管理の勉強会に参加、利用者の状況から予測される危険なことを職員同士情報を共有し防ぐための検討を、また、ヒヤリハット報告書、事故報告書をもとに再発防止に向け話し合っています。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、開設者法人で救急蘇生、応急処置の勉強会に参加、新しい職員を除いては全員普通救急救命講習を受講しています。	○	新しい職員は順次受講していきます。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	新しく設置された非常口を使って、昼間を想定し避難訓練を職員 利用者を交えて実施。災害時の協力を公民館長 民生委員に声掛けはしていますが、形としてはありません。	○	地域住民の協力が得られるように、連絡網の作成をしていきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者に起こりうるリスクについて、家族に適宜報告し、状況の変化にあわせ、対応策を家族と共に考えています。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人からの訴えが少ないため、日頃より観察を密にしいつもと違うところがあれば、バイタルチェックと合わせ速やかに看護師に報告、開設法人の病院へ連絡、対応しています。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の手帳があり把握できるようにしています。薬本も準備、薬の変更時は全職員に伝達し、配薬は職員二人で確認しています。症状の変化を観察 記録し医療機関へ情報提供しています。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食に牛乳、ヨーグルトを取り入れ、水分摂取を多くし、廊下歩行、腹部マッサージ、排泄パターンを見ながら排便誘導、下剤の使用時は医師と相談し状態にあつた使用量を指導していただいています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けをおこない、一人一人能力に応じて見守り介助を行っています。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、夕の献立は開設法人病院の管理栄養士の献立で、昼は利用者の希望を取り入れて献立を決め、管理栄養士に提出確認、食事量はチェックし記録、飲水量は必要な人はチェックし記録しています。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルがあり、感染症発生状況の情報収集に努め、予防、早期発見、早期対応に努めています。利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を毎年受けています。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は食器乾燥機で乾燥。まな板、布巾は熱湯消毒や漂白剤除菌、食材は開設法人病院の管理栄養士より発注、管理、保管され、毎日新鮮な食材が提供されています。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口には表札を掲示し、玄関周りには花を植え家庭的な雰囲気になっています。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファの位置も食堂の窓を通して、外の木々や畑の作物、草花が見えるように配置し 季節の花を生け、壁には行事の写真や季節の飾り付けをしています。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのほかにも畳敷き、ソファ、椅子を置いて思い思いの場所で過ごせるようにしています。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の筆筒、位牌、仏壇が置いてあり、家族、昔の思い出の写真、思い出の品物を飾っており、思い思いの居住空間にしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気を行い、室内の臭いなどに気付いた場合は、原因を探し、取り除いています。部屋の温度計を見、体感温度を感じ、利用者に尋ねたりして職員が温度を調節しています。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリー様式で、随所に手すりを設置、一人ひとりの身体機能に合わせて、居室の家具の位置、ベッドの高さ、柵の位置、ポータブルトイレの位置、高さを検討し自立した生活が送れるように工夫しています。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口にその人らしいネームプレートを表示し混乱を防いでいます。風呂場には利用者手作りののれんをかけています。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に季節の野菜を植え、成長を楽しみにできるようにしています。また建物の周りにはプランター、鉢植え、花壇に花を植え、庭先には椅子、テーブル ベンチを置き憩いの場となっています。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 ○ 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない